



## 編集月旦 2013年・平成25年・癸巳 元旦+

★web「月刊丈風」は、デジタル媒体誌としてスタイルを模索しながら半歩ずつ進めています。ペーパー媒体の月刊誌のように全面新組みとはせず、**新情報・新資料**は初掲載ですが、再掲や再登場もあります。ただし内容や数値の修正・補足・書き換えがなされています。当月号から既載分の検索ができます。

☆2012年12月号は「年鑑」として5月刊行以来の情報・資料をまとめてあります。

★2013年の南九十九里からの初日の出です。地元の友人又村紘氏の撮影です。

平成癸巳（みずのと・み）元旦の、一宮海岸の曙光のベスト・ショットです。水平線に近く低く東天に横長の雲が懸っていて、待つことひとしきり、光芒の広がりから雲の陰の太陽の位置が知られた一瞬のカット。光を映さない波濤が海の厚い質感を伝えて、神性を秘めた天恵への年初の願いをみごとに捉えています。



★「雪降るな ここは被災地 差せ初日」は、高連協代表の堀田力さんの心優しい発句です。「平和団塊」は、両親に平和裏に生きることを託された戦後生まれ（昭和21年～）の人びとで、65歳の高齢者の仲間入りをしつつあります。

☆「高連協年頭学習集会」（9日）のあいさつで、「人生90年時代」の代表でもある樋口恵子代表は、ことし1年「追い風」を受けて活動しましょうと呼びかけていました。

☆「学習集会」のあと、記者クラブの喫茶室で、尾崎美千生さん、岡本憲之さんと談論。「3つの課題」としてまとめました。

★NHK「日曜討論」（13日）の「2013年、政治はどう動くのか」では、安倍首相・山口党首の防災・減災への優先発現は、経済優先の声に応えたものでしょうが、“人への呼びかけ”がありません。総選挙で惨敗のあと、党再生に「粉骨砕身」して生を全うすると誓った海江田党首は、みんなが安心できる「社会保障」のある社会のために、女性と高齢者の参画を呼びかけました。とくにみずからの仲間である「団塊」の人びとに支援を求めたのははじめてのことであり、高齢者の持つ潜在力への期待をにじませていましたが、訴えは弱く、あまりに遅すぎます。

☆コンクリートでなく人の力の発現の持続による萎縮（デフレーション）からの脱却。「三世代多重型」の社会形成への提案は「7月参院選」にむけての提案として継続します。

★本誌では新たな時代の内容を盛るために、新しいことば（器）を用いています。

20世紀後半期の社会 → 21世紀初頭の社会

- ・「人生65年時代」 → ・「人生90年時代」（65+25年人生）
- ・少子・高齢化社会 → ・日本型長寿社会（つりがね型社会）
- ・「二世世代+α型」社会 → ・「三世代多重型」社会
- ・支えられる高齢者・余生（老人） → ・支える高齢者・現役シニア（丈人）
- ・団塊世代（昭和22～24年生まれ） → ・平和団塊世代（昭和21～25年生まれ）
- ・青少年期に能力養成 → ・高齢初期（60～65歳）に2回目の能力養成（地域大学校）
- ・国土の均衡ある発展 →（とともに） ・個性ある地域の発展

★世界平和の実証としての「日本長寿社会（高齢社会）」の達成と「アジアの共生（豊かさの共有）」のための活動は、ふたつながら邁進。（編集人・堀 亜起良 堀内正範 記）

